



楽々亭通信

第5号
令和3年1月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

楽々亭は第6回目を

開催いたしました

『十円玉に思うこと』

本願寺派布教使

安堂芳雅

ピカピカの十円玉を見ると、娘が小学校に上がった年のことを思い出します。

「私もお姉ちゃんみたいにお小遣いが欲しい。」と言いだしたので、お財布の中から百円玉二枚と、たまたまあった「ピカピカの十円玉」一枚を、娘の財布に入れてやりました。そしてひと月後のお小遣い日です。

娘が持ってきたお財布を開けてびっくりです。

「増えてる…。」ひと



月前に入れてやった金額は二百十円なのに、なんと三百円に増えていたのです。お財布の中で何が起ったのかわかりませんが、こんなお財布なら私も欲しいものです。

話を聞いてみると、娘はあの「ピカピカの十円玉をお友達にみせびらかしました。

「ピッカピカやん」「さわらせて」「ピカ⑩やな、ピカ⑩」と、大騒ぎになったようです。

「それで?」「〇〇ちゃん、いいなあつて欲しい。そうに言うから、三百円になった。」とのこと。

なんと、娘はその「ピカ⑩」を、お友達の百円玉と交換していたのです。おまけに、「今日もピカ⑩あ

る?」と私のお財布をのぞき込んだので「こら!、すぐに〇〇ちゃんに九十円返して謝ってきなさい」と玄関を開けたのでした。

十円玉についてのエピソードをもう一つ、こちらは新聞に掲載されていたものです。

携帯電話がまだなかった「昭和」の頃、家庭の事情で親御さんと一緒に生活できない子どもたちの養護施設でのお話です。

先生が机の上に一円玉、五円玉、十円玉、五十円玉、百円玉、五百円玉の六枚の硬貨を並べて、「みんな、この中の一つもらえるとしたら、どれがいい?」と聞かれました。

ある子どもさんが手に取ったのは、「十円硬貨」です。「どうしてこれがいいの?」

「だって、お母さんの声が聴けるから」お母さんの声を受話器

を耳に押し当てて聞いているその子の姿が浮かんできます。

ものの見方には、他と比べて位置付ける「価値」という見方と、それが自分にとってどのような「意味」を持つかという、二つの見方があります。

確かに十円は百円の十分の一、五百円の五十分の一の価値(値打ち)しかありません。しかし、「十円玉はお母さんの声が聞ける。」と言った子供にとつて、十円玉には特別な「意味」があったのです。

欲張りな私たちは、少ないより多い、遅いより速い、損をするより得をする、つまり「価値」がある方を選びがちです。しかし比較をしながら生きていく世界は、一つ間違うと暗く生き苦しい世界です。対して、「意味」を大事にしていく世界は、「私で

よかった、あなたでよかった、今、ここに、生きていてよかった」と大切に思えるあたたかい世界のように思います。

新しい年をいただきました。今年からは、日々の暮らしの中で、人間関係に疲れた時、自分や家族が大きな病気になった時、身近な方が亡くなった時、それこそこらえきれない悲しみ苦しみの時に、周りと比較せずに、私にとってこの事はどんな意味があるのか…に思いをめぐらしてみませんか。きっと、大切なことを教えてくれています。

● 仏さまのお姿には三十二の特徴があります。

前回取り上げたのは、真っ平らな足の裏(足下安平立相)でした。仏さまの分け隔てのないはたらきを、地面に隙間なく接する形

としてあらわしています。
その足裏には、輪形の模様があるのですが、これが二つめの特徴、「足下二輪相」です。

この模様は「法輪」といいます。「法」は教え、「輪」は車輪のことです。お釈迦さまのご説法が、一か所に留まることなく、車輪のように自在に動き、あらゆる所のあらゆる人々のもとに届くことをあらわしています。

仏像がつくられるようになるまでは、この法輪の模様が、仏さまの印しるしでした。



楽々亭第6回に参加して

たまに小雪がチラつく中、第6回の楽々亭に参加させて頂きました。

今年はコロナに染まった1年

で、密閉、密集、密接を避けることが強く求められ暗い日が多く、今年の漢字も「密」になりました。

でも、安堂先生に仏教には「身密」「口密」「意密」という「3密」の言葉があり、体と言葉と心を整える修行があると教わりました。こんな今だからこそ、きちんと自分の体を労り、気持ちを整やかにして、周りの声に耳を澄ましたら、いろんな人と心の繋がりがより一層深くなる、いい機会なんだと思います。「3密」の窮屈なイメージが変わりました。これから冬本番に入る前に、「足早く春が訪れたような暖まるお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。

奥村文代

もう六回目になるのですね。

安堂さんが熱心に仏の道を説いて下さっているのに、邪念に囚われて進歩のない私ですが、この日参加された方々もそれぞれの人生を歩んできて、生きてい

る意味や死に対する考えは様々。

体験されたことを話されたり、自分はこう考えているといったお話を聞くのは、未知の世界を見るようで面白いです。そんなことを自由に率直に出せる場であることが、楽々亭の魅力だと思いました。

光木和子

楽々亭も6回目を開催されました。

私は1回目は参加できず、2回目より参加させてもらっています。

当日は地獄のお話でした。少々戸惑いながら、安堂先生のお話、皆さんの話を聞きながら、私も色々な事があったなあ、あれは私の地獄？だったのかなあと思っていました。

私も回を重ねる毎に、小さな時から仏様のご縁に触れていた事に気づき、少しだけでも仏教について知りたい、教えてほしいという思いにかられています。

この楽々亭を開催されるという話を初めて聞いたのは、未だコロナで三密に、マスクをと言われている時で、本当に開催できるのか？と心配しましたが、気づけばもう6回目ということで、良かったなあという思いと、コロナも続いていますし、悲しみ、苦しみで涙しながらも、仏様のご縁に触れさせて頂きながら、これからの私の人生（もう残り少ないと思います）を、楽々亭と共に生きていきたいと思っています。

山口和子

楽々亭第7回 1月の予定

1月5日(火)

西京区役所洛西支所会議室

1時30分～3時30分

12月に開催した場所です。

表玄関から入って下さい。

楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。